『イエスは答えられた。『わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。』ルカの福音書 19 章 40 節

当時のユダヤ社会の中には、地の民（アム・ハアレツ）と呼ばれる下層民衆がたくさんいました。貧しい漁民や農民、下級の徴税人、下層労働者たち、それに奴隷、売春婦、不治の病人たち…。そのような人々が「地の民」と呼ばれていたのです。

彼らの働きによってユダヤ社会は支えられていたにも関わらず、経済的にはローマ帝国の権力者や大土地所有者、大商人たちから搾取されていました。また宗教的にはユダヤ宗教家たちからは律法の細則を守れない無知な人間として軽蔑されました。

主イエスはそのような地の民と呼ばれて

いる人々のなかに入り、癒やしや奇跡を行い福音を説かれました。そこには罪と汚れの中で自分の存在の意味を見失っている人々に、神の招きと赦しを説き、生きる希望を与えるメシアの姿がありました。

そのイエスがいまエルサレムに入城しようとしています。弟子たちはここで、彼らの師からメシアの宣言がなされ、神の国が建設されるという思いで一杯でした。弟子達は歓喜の声をあげましたが、その光景を見ていた幾人かのパリサイ人たちは面白くありませんでした。そして主イエスに弟子達を叱るように言ったところ、主イエスは「君

たちに言う！もしこの者たちが沈黙するならば、石が叫ぶであろう」と返答されたのでした。陽の目をみない人々、名も無き人々、虐げられている人々…。そのような社会的弱者や抑圧された人々が叫び出すと主イエスは示唆されたのでした。

これはまた、弟子たちの理解と熱狂に誤りがあるにしても、御自分が王であることには変わりがないという主イエスの宣言でもありました。

世の中が変われば、自分は幸福になれると誰しもが思うことでしょう。でも本当に変わらなければいけないのは自分自身です。この時、弟子達は主イエスの真意に気付くことはできませんでしたが、主イエスは「それでよし」とされてエルサレムに向かわれたのでした。

【報告 消息】

・児童祝福式 2名のお子さんのために祈りの時を持ちました。教会に託されている幼子や若者たちのために引き続き祈りましょう。

荻野牧師は夕方の東京育成園奉仕でも児童祝福式の祈りの時があり、無事に務めを終えました。お祈りを感謝します。

・粗大ゴミ処理 ガレージにまともでない粗大ゴミは山口光男兄と若月伊佐久兄の御労で処分が済みました。感謝します。

・林良男兄よりサーモグラフィカメラが献げられました。礼拝堂玄関で検温に使用します。

・4階男子トイレ内の洗面台補修

洗面台の排水管が老朽化で水漏れしていました。掃除の際に発見され、若月伊佐久兄が修繕してくださいました。感謝します。

会堂も建築から30年が経過しています。皆様のご協力で年数に比してキレイに保たれています。しかしながら、傷んでいる箇所もしばしば見られます。お気づきの点などあれば教職者または管理部までお知らせください。

・富弘カレンダー2022

注文者への引き渡しについて

現金と引き替えにて受け渡しを行って
います。担当 管理部（菊地兄）

・有志ボランティアによる

無料食品配布について

教会員や地域の方のご協力で配布用の食品は十分に集まりました。ボランティアチームより感謝が届いています。

・講演会「グリーンフケア」の講演記録を
文書にまとめました。ご希望の方には配布
致します。教育部・山口兄、戸梶姉ま
でご連絡ください。

【教勢報告】 11月14日

第1礼拝 27名

第2礼拝 33名

小学科礼拝 2名

ホザナ礼拝 中1名 高2名